

取組名	続、屋久種子の人工林を元気にしよう	
署等名	屋久島森林管理署	
実施した取組の内容、成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年 6 月 屋久島スギ人工林材の民・国統一名称策定について熊毛流域森林・林業活性化センター総会にて提案。 ・平成 19 年 7 月 簡易で壊れにくい路網の普及を図る目的で、熊毛流域森林・林業活性化センターと協働で、林業事業体を中心として実演を交えた路網研修会を開催。 ・平成 19 年 11 月 林野庁の国有林野事業業務研究発表会において、当署の島外出荷の取組について経過報告を交えて発表。 ・平成 20 年 10 月 前年度開設箇所无路網を視察し、より良い路網の作設方法等について意見交換会を実施。 ・平成 20 年 11 月 高性能林業機械の運転技能向上を目的に実技操作研修を実施。 ・平成 21 年 11 月 低コスト路網検討会及び高性能林業機械運転技能向上研修会を実施。 <p>成果等：低コスト路網については、関係者の理解が深まっており、種子島でも導入したいとの意見が出ている。民材搬出についても熊毛流域森林・林業活性化センター等と連携した取組を進めており、現在、屋久島町有林で材の生産が進められている。平成 22 年度初めには民材を含めて島外出荷が出来る見込となっている。また、平成 21 年度から森林整備公社においても森林整備に伴う資材の有効活用を図る取組が進められており、これまで続けてきた取組の成果が出たものと考えている。</p>	
取組体制	署長、流域管理調整官が主体となって企画・調整	
自己評価	熊毛流域森林・林業活性化センター等と連携した取組を継続してきた結果、一定の成果が得られたものと考えている。	
今後の展望	地域発案システムとしては、一定の成果が得られたものと考えているが、地域の活性化については満足できるものではないことから、今後は通常業務の中で、地域材利用拡大に向け、生産コストの引き下げやロゴマーク・統一名称の作成等の取組を続けていきたい。	
新聞等掲載状況		